

日本勤労者山岳連盟 第35期(2023年)第1回評議会 参加報告

理事長 野田久生

全国連においては、総会は2年毎に開催されます。その間の年に、前年度の報告と今年度の活動方針確認のための評議会が行われます。

当会議に参加しましたので、概要報告を行います。

日 程 2023年2月18日(土) 13:00～19日(日) 12:00

ホテルコンチネンタル府中 会議室にて

参加者 全国都道府県連盟の評議員(会員1000人に付1人):委任状含めて38人参加
→定数51人で38人の参加により評議会は成立した。

全国連:役員(会長、副会長、理事、事務局、専門委員)31人

傍聴者:2人

今年度のスローガン

「平和と自然がとても大切、今こそ山へ！」



解説:ウクライナ・ロシア戦争反対、自然保護活動の推進、登山を楽しもう

1. 評議会の主な議案

- 1) 第35期(2022年)上期の活動総括と第35期(2023年)下期の活動方針
- 2) 第35期(2022年)上期の財政活動総括と第35期(2023年)下期の財政方針、予算案の策定



浦添会長の挨拶 (左は川嶋理事長)

2. 評議会の主な目的と主要な課題

- 1) コロナ後の登山界での組織強化と拡大を目指す活動について
- 2) 遭難事故を減らす安全登山教育の充実について
- 3) 大規模開発から山岳自然を守る活動について
- 4) 平和な社会で、登山文化を発展させる取り組みについて

3. 評議会における主な報告(議案書の抜粋) ⇒ 意見など

- 1) 2022年11月末の組織数調査結果
562団体、16,814人(前年より292人減)
平均年齢 64.15歳(男性:64.50歳、女性:63.81歳)
- 2) 2022年労山内の山岳遭難概況
死亡・行方不明者:7人
事故件数:327件、事故者数:334人 増加傾向にある
事故者数334人の内、下山時の事故は51%、その中の67%(114人)が転倒事故である。転倒事故対策が急務。(よく言われていることである)
- 3) 組織強化拡大を目指す取り組み
直接的・間接的に労山の歴史・良さを語り、伝えていく。⇒ 具体策が必要
- 4) 月刊機関誌『JWAF journal』を発行する。季刊誌の発行については現在検討中。
地方連盟においてはまだ理解度が低い。⇒ 今後の充実に期待したい。
- 5) 2022年度決算報告
一般会計、特別会計共赤字となっており、繰越金を切り崩しての運営となっている。今後の収入減に対応して、支出の削減に努めていく。
- 6) 決議決定集の発行・配布
今回の評議会の指摘に基づき内容を修正して、「決議決定集」を3月に各連盟各会に配布する。 ⇒ 直接、各会代表に送付されるとのこと

4. 評議会参加の感想及び地方連盟からの主な報告等

- 1) コロナの影響でオンライン会議が多くなり、便利になったが、生の感情が伝わりにくいなどの弊害も発生している。(川嶋理事長からも同様の発言あり)
全国連⇒地方連盟、地方連盟⇒全国連、相互にうまく伝わっていないことがある。
- 2) 各地方連盟から独自の活動報告があった。
 - ①東京都: 高尾山でタイムトライアル(設定時間で登る)を行っている。
 - ②和歌山: 公開ハイクを実施した。会員募集に繋げていく。
 - ③広島: 一般者向けの登山講習会を行い登山の楽しみを伝えている。
60歳以上の女性の参加が多かった。
 - ④宮城: 他県の連盟と交流ハイクを行っている。
 - ⑤神奈川: 高齢者対策としてバードウォッチングを行っている。参加者は多い。
 - ⑥兵庫: パワーポイントにて登山に使う筋力の測定と講習結果の報告を行った。
 - ・加齢により低下する反射機能 ⇒ 筋トレで活性化する。
 - ・大学の先生と共同で実施している。

※各連盟より独自の活動について多くの発言があり、コロナ後の活動再開が感じられた。高齢化問題は当然のこととして、元気な高齢者を目指すなどの発言もあり。詳細は、今後発行される「決議決定集」を参照願います。(2023/2/25)

以上